

研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2006～2009
課題番号：18202027
研究課題名（和文） 日本におけるエスニック地理学の構築のための理論的および実証的研究
研究課題名（英文） A theoretical and verificational study on formation of ethnic geography in Japan
研究代表者
山下 清海（YAMASHITA KIYOMI）
筑波大学・大学院生命環境科学研究科・教授
研究者番号：00166662

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：エスニック地理学 文化地理学 民族 人種 移民 エスニシティ

1. 研究計画の概要

本研究では、日本におけるエスニック地理学の構築を目指して、エスニック集団に関する理論的研究および実証的研究をおこなうことを目的としている。このため、エスニック地理学の理論的研究を進めながら、日本および海外においてインテンシブなフィールドワークを実施し、実証的研究を蓄積しながら、エスニック地理学の理論的発展を目指す。

具体的な研究目的としては、以下の4点にまとめることができる。

(1) エスニック地理学の研究視点、概念、研究方法の明確化

日本および海外におけるエスニック地理学の研究成果および研究動向を整理し、エスニック地理学の研究視点や概念、研究方法について検討する。特に、アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア・ドイツ・オランダなどの先進地域におけるエスニック地理学の研究動向の分析に重点をおく。

(2) エスニック集団のホスト社会への適応パターンの解明

各々の地域においてさまざまなエスニック集団のホスト社会へ適応パターンについて検討していくと、多くの地域において類似したパターンが見出せると同時に、当該地域あるいは当該エスニック集団に特徴的な適応パターンが見出せるであろう。このようなホスト社会への適応パターンの普遍性と地域性を明らかにすることにより、理論化、モデル化を目指す。

(3) エスニックタウンの形成過程・景観・機能の究明

チャイナタウン・ジャパントウン・コリアタ

ウンをはじめ世界各地には、特定のエスニック集団によって形成されたエスニックタウンがみられる。本研究では、世界各地および日本国内のエスニックタウンを比較検討することにより、エスニックタウンの形成過程・景観・機能に関する一般化、類型化を試みる。

(4) グローバルな視点からの日本国内のエスニック集団の特色・位置付けの明確化

本研究では、海外の事例研究の成果にもとづいて、日本国内の韓国・朝鮮人、中国人（華人）、ブラジル人などのエスニック集団の居住パターン・経済活動・伝統文化の維持などについての特色を明らかにするとともに、グローバルな視点からの日本のエスニック集団の位置付けについて考察する。

2. 研究の進捗状況

2006年度から、本研究計画を開始以来、各メンバーは、海外および国内において、各地のエスニック社会に関する現地調査を実施するとともに、関連資料を収集してきた。また、エスニック地理学の実証的研究の成果を学会で発表するとともに、一部は論文・図書として公刊した。

山下はアメリカ・インド・国内の華人社会について調査した。日系人に関しては、飯田がブラジルにおいて、椿がカナダにおいて実証的な研究を行った。エスニック地理学の理論的考察については、杉浦が成果をまとめた。千葉は、アイヌ社会に関する考察を実施した。一方、ヨーロッパについては、加賀美がローマ人について、石井がスペインのバスク地方について、大島がオランダのムスリムについて、

それぞれ現地調査を続けた。澤はインドおよび日本国内において、インド人社会に関する実証的および理論的な考察を深めた。

毎年度、研究集会を開催し、各メンバーが研究の中間的成果を発表し、意見交換を行ってきた。これにより、本研究計画の共通理解が深まった。その結果、本研究メンバーが中心となって、2008年4月に、『エスニック・ワールド—世界と日本のエスニック社会』（明石書店）を刊行することができた。本書は、多くの学会誌において書評が掲載され、日本におけるエスニック地理学の発展に大きく寄与するものとして、高い評価を受けることができた。

3. 現在までの達成度

各メンバーは、誠実に研究分担項目に取り組んでおり、研究の成果の一部は、すでに多くの図書、論文等として公刊している。また、学会においても、本研究のメンバーの活動は、エスニック地理学への関心を高めるとともに、若い研究者の研究に大きな刺激となっている。

したがって、本研究の現在までの達成度は、「②おおむね順調に進展している」といえる。

4. 今後の研究の推進方策

平成21年1月、研究集会を開催して、各メンバーの研究成果を発表しあつた。その際に、今後の具体的な研究計画について、相互に意見交換を行った。

研究成果は順調に蓄積されつつあり、次年度の最終年度には、補足の現地調査を行いながら、最終成果の取りまとめを行い、2009年年2月に最終報告書を作成するとともに、できるだけ速やかに単行本『エスニック地理学—その理論的・実証的研究—』（仮題）として公刊する予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計19件）

- ① 杉浦直：エスニシティ生成の地理的諸類型とエスニック地理学の主題，地理科学，63，260-272，2008，査読有
- ② 飯田耕二郎：ブラジルへの戦後花嫁移住—日本力行会「南十字会」を事例として—。大阪商業大学論集，150，101-113，2008，査読無
- ③ 山下清海：ブラジル・サンパウロ—東洋街の変容と中国新移民の増加—。華僑華人研究，4，81-98，2007，査読有

〔学会発表〕（計12件）

- ① 加賀美雅弘：移動する人々と移動しない人々—ヨーロッパのエスニック集団再考，日本地理学会，2008年3月30日，獨協大学

〔図書〕（計10件）

- ① 山下清海編，明石書店，『エスニック・ワールド—世界と日本のエスニック社会』，2008，260頁